小学校高学年の共同体感覚と学校適応感との因果関係の推定

高坂 康雅

(和光大学現代人間学部)

キーワード：共同体感覚，学校適応感，パネル調査

Causal Relationships between Social Interest and School Adjustment among Upper Grade Students in Elementary School

Yasumasa Kosaka

(Faculty of Human Studies Wako University)

Key Words: Social Interest, School Adjustment, Panel Study

目 的

共同体感覚(Social Interest)は、アドラー心理学における理論的中心概念である。共同体感覚について Adler(1930/1970 岸見訳, 1998)は、“正常性のバロメーター”であると述べているように、共同体感覚は社会適応との関連が指摘されている。実際、高坂(2011)では、中学生や大学生において共同体感覚と学校適応感との間に正の関連がみられており、高坂(印刷中)では、小学生においても両者に正の関連がみられている。

しかし、現時点では、共同体感覚が学校適応感を高めるのか、学校適応感が共同体感覚を高めるかという、両者の因果関係は明らかにされていない。両者の因果関係を明らかにすることは、アドラー心理学を実証的に検証するとともに、共同体感覚を高めるための教育実践にも寄与できると考えられる。

そこで、本研究では、小学校高学年を対象に3波のパネル調査を実施し、共同体感覚と学校適応感との因果関係を明らかにすることを目的とする。

方 法

調査対象者 神奈川県内の小学校1校に通う4年生～6年生227名(男子115名，女子112名)を調査対象者とした。

調査内容 (1)小学生版共同体感覚尺度(高坂，印刷中)：“貢献感”4項目，“所属感・信頼感”5項目，“自己受容”4項目を使用した。回答は5件法で求めた。(2)学校適応感項目：教育環境適応尺度Ⅱ(ASEⅡ；小泉，1995)をもとに，“対教師関係”，“学習関係”，“自校への関心”，“級友関係”の4下位尺度各5項目ずつを作成し，使用した。回答は4件法で求めた。

調査時期・方法 第1回調査(Time 1)を2012年7月，第2回調査(Time 2)を同年11月，第3回調査(Time 3)を2013年2月に実施した。調査は学級担任がクラス単位で集団で実施した。実施の際には，匿名性や回答の任意性などについて口頭及び紙面で説明した。また，各回答の対応を確認するため，学年・組・番号の記入を求めたが，調査終了後，調査対象者の前で担任教師がテープ付きの封筒に調査用紙を封入し，教師が回答をみたり，個人を特定することがないことを改めて説明した。

結 果

3波のパネル調査で得られたデータについて，交差遅れ効果モデルを用いて，共同体感覚と学校適応感との因果関係の推定を行った。この際，高坂(2011)や高坂(印刷中)において，共同体感覚には男女差があることが示されているため，男女別に分析を行った(Figure 1)。最終的なモデルに対する適合度指標から，モデルはデータにある程度適合していると判断された。

Figure 1 から，①男女ともに，同一時点での共同体感覚と学校適応感との間には強い相関関係がみられた，②男女ともに，

注：有意なパス及び誤差共変動のみ示した。また値は男子/女子である

Figure 1 共同体感覚と学校適応感の交差遅れモデル分析結果

学校適応感は Time 1 から Time 2，Time 2 から Time 3 に正の影響を示したが，共同体感覚は調査間での影響はみられなかった，③男女ともに，学校適応感(Time 1)が共同体感覚(Time 2)に正の影響を示し，学校適応感(Time 2)が共同体感覚(Time 3)に正の影響を示していたが，共同体感覚から学校適応感への影響はみられなかった，という3点が明らかになった

考 察

本研究の結果から，学校適応感が共同体感覚を高めていることが明らかになった。つまり，小学生の共同体感覚を高めるためには，まず学校に適応できているという感覚をもつための教育や関係・環境づくりが必要であると考えられる。

また，共同体感覚は調査間で影響を示していなかった。共同体感覚はある時点で高められるとそれ以降維持されるものではなく，常に高めるための働きかけを行わなければならないことも示唆された。

今後はさらに長期間における検討や，小学校から中学校への学校間移行での共同体感覚と学校適応感との関連を検討する必要があると考えられる。

引用文献

- Adler, A. (1970). *The education of children*. Indiana: Gateway.(Original work published (1930).) (アドラー, A. 岸見 一郎(訳)(1998). 子どもの教育 一光社)
- 小泉令三 (1995). 小学校高学年から中学校における学校適応感の横断的検討 福岡教育大学紀要, 44, 295-303.
- 高坂康雅 (2011). 共同体感覚尺度の作成 教育心理学研究, 59, 88-99.
- 高坂康雅 (印刷中). 小学生版共同体感覚尺度の作成 日本教育心理学会第55回総会発表論文集.